



文原の失敗と成功の歴史

文原寛和

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

このレポートの著作権は文原寛和に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。

著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

【その他】

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

【推奨環境】

このレポートに記載されている URL はクリックできます。

できない場合は最新の AdobeReader を下記のページよりダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

もくじ

1992年12歳中学1年:初めてギターを手にする.....	5
1996年16歳高校2年:新品アコースティックギターを手にする	6
1998年18歳大学1年:大学の軽音サークルに入り初めてエレキギターを手にする	7
2002年22歳~:自主製作CD「寛ぎ」を完成させた.....	9
2008年28歳~:バンド「リュウセイヤロウ」の活動.....	10
おわりに.....	11

はじめに

それでは、このファイルでは、
文原のエレキギター(音楽)に関する失敗と成功の歴史を
お伝えしようと思います

これらの歴史から、
同じ失敗をしないように注意し、
成功の部分を学び、
そこから得た教訓を生かせば

文原が始めてギターを手にしてから
20年以上の時間を
お得に利用できることとなります

是非、参考になさってください

1992年12歳中学1年:初めてギターを手にする

親戚の家にあったアコースティックギターを持ってきて、
1冊の教則本を相手に練習を始める

失敗

- ・このアコースティックギターのネックが曲がり過ぎていて、
すでに楽器として機能しないレベルだった
- ・そして、それに気づくことができなかった
- ・チューナーなど、必要な小道具などがたりなかった
- ・どうやって上達すればいいか、道筋を教えてくれる人もいなかった
- ・その教則本だけでは、初心者の自分にとって、不十分な点多すぎた

成功

- ・とにかく最初の一步を踏み出し、始めることができた
- ・頑張っただけ練習していたので、ギターにある程度なれることができた
- ・無理矢理だが、いくつかコードフォームを覚えることができた
やらないよりは良かったと思う

教訓 「考えるよりもまずは初めてみる」

でも、このアコースティックギターのまま4年も練習していたので・・・
(次につづく)

1996年16歳高校2年：新品アコースティックギターを 手にする

無理矢理ながら、とにかく新品のアコースティックギターを手にする
この頃になると、今まで使っていたアコースティックギターのネックは
反れ過ぎて弾きづらすぎたのだと、直感的に分かっていた

失敗

- ・10万円もするエレキアコースティックギターを買ったのだが、
用途、買う目的などを考えると、無意味に高い買い物をしていた
結果的に良かったが、無謀過ぎた 当時エレキ部分は使う場面がなかった
- ・このエレキアコースティックギターの選択が我流だった
得たい結果を得ている人から学んで選択すべきだった
- ・やはりエレキギターの方が押さえやすいし、夜練習できるし、
今思えば、この時、エレキギターを買っておけばよかった
- ・ちゃんと教えてくれる人が相変わらずいなかったのも、
練習方法が、さらに我流になっていった

成功

- ・新品を買ったことにより、今までの練習の成果が出て、
簡単なコード弾きなどが一気にできるようになった
- ・ギターに対する気持もまるで違う物になった
- ・TAB譜を見ながら何とか弾けるようになる曲がいくつか出てきた

教訓 「必要なものを必要に応じて買う」

1998年18歳大学1年:大学の軽音サークルに入り初めてエレキギターを手にする

バンドにずっと憧れがあったので、
大学に入ってすぐ、サークルに入部を決めた
1人暮らしをはじめたので、活動に没頭しやすかった

その年の夏、初めて
エレキギター(フェンダージャパンストラートキャスター)を手に入れて、
現在に至るまで、そのギターを使用する事になる

失敗

- ・仲間内の人間関係やサークルの余興に甘えて、
猛練習して上達する、といったことをさぼった
どこかしら、墮落がかっこいい、という風潮を自分で作り上げてしまっていた
- ・バンドで演奏するコツ、みたいなものを、大雑把にはつかんだのだが、
もっと突っ込んで、自分の得意スキル(作曲など)を磨きあげるべきだった
やっぱりサボり癖のようなものが良くなかった
- ・CDをどんどん配ったり、路上のライブをやったり、
一つのバンドで徹底的に成長していく、などなど、
できることをできるところまでやる、という貪欲さと行動が足りなかった

成功

- ・先輩から中古でエレキギターを、安く譲ってもらえた(たしか、5万円)
利口な買い方だったと思う
そして、物は、長く使えば使うだけ、費用対効果が良い
- ・多くの音楽仲間、先輩後輩に囲まれて、非常に多くを学べた
- ・我流の練習が、全然意味ないと分かってきた
- ・専属コーチなどはいなかったが、仲間が先生になってくれたおかげで、
脱線せずに上達していった
- ・他の楽器を練習する機会も増えた
主に、ドラムの基本的な演奏ができるようになった
- ・自作曲のレコーディングを沢山体験し、エレキギターが上達するきっかけを掴んだ
- ・リズムに合わせる、ということが最重要だと、実体験で知ることができた
- ・当然、バンドで沢山の練習をするので、バンドの中で音を楽しむことを学んだ
- ・エレキギターの演方について分別して考えることができるようになった
(バックイング ⇄ ソロ)
(リフ、コード弾き、アルペジオ、オブリガード、カッティング、ソロ)
- ・バンドで沢山のエレキギターを演奏したり、何気なく楽器屋による機会が増えて、
エレキギターの構造、ピックアップやギター本体の音の違い、
エフェクターの使い方などについて、
少しずつだが、わかるようになってきた

教訓 「楽器の上達にはレコーディングが重要

そして仲間と共に学んだこと、その時間は財産になる」

2002年22歳～：自主製作CD「寛ぎ」を完成させた

社会人となり、地元新潟に戻り、バンド活動は全部できなくなり、
両親が自営する飲食店の都合で、
バンド活動は、難しいんじゃないか？という雰囲気だった

そこで、時間をみつけては、
自主製作CDのレコーディングやジャケット作成作業をして、
5年越しぐらいで完成させた

失敗

- ・カッコつけるためにデザインなどに無意味にこだわってしまい、
音ファイルが出来上がってから、CD完成までに時間がかかり過ぎた(3年程)
- ・デザインの方法を、できるところまで、もっと調査してから行うべきだった

成功

- ・完全フルオリジナルアルバムを自主製作することで、製作のノウハウを得た
- ・親しい人に、自分の楽曲を配り、知ってもらうことができた
- ・1枚500円で12枚販売する事ができた(当然、赤字だったが)
- ・楽曲を作ってレコーディングして、相手に知ってもらう、というサイクルが、
当たり前のことだと思えるようになった
- ・「CD棚に自分のCDが並ぶ」という当時の夢が実現できた
- ・レコーディング中は、OKテイクが出るまでひたすらテイクを繰り返すので、
自然とギターの実習になっていた
- レコーディングすれば、当然、普段気づかないダメポイントが浮き彫りになる

教訓「自主製作アルバムは、作るに越したことはない どんどん作ろう」

2008年28歳～:バンド「リュウセイヤロウ」の活動

空いた時間の隙間を縫えば、なんとかバンド活動ができる
ということで、地元中学の同級生バンド「リュウセイヤロウ」の活動を始める

2012年1月で、活動は休止してしまっただが、ここでも多くの学びを得た

失敗

- ・バンドメンバーのスキルの差が激しく、特に最初はリズムが合わずに、
初歩的な苦勞をした
- ・メンバーの基礎スキルを磨くための時間が必要で、
その壁がバンド活動の支障となり、メンバーのテンションが下がっていった
もっと楽しくなるように、経験のある文原が引っ張ってあげないといけなかった
- ・バンドでギターをアレンジしたり、上手に弾きこなすというスキルが、
文原にはいまいち足りず、もう1人のギタリスト任せになっていた

成功

- ・オリジナル曲、数曲を、ある程度の質でライブする事ができたので、
イベント主催側や、地元高校の軽音部などから、
一目置かれる存在になることができた
- ・新潟県内のラジオ(FM新潟)で曲を流してもらえた
- ・地元地域イベントに当たり前のように参加するロックバンドとして、
3年に渡り、認知してもらえることができた
- ・楽器をやっていない純粋なお客さんが、ライブについてきてくれた
- ・ギターについて悩んだおかげで、ギターの基礎スキルがさらに上がった
バンドのギタリストが元プロだったので、そいつから学びたい応用部分を学べた

教訓「とにかくバンドやろう！仲間とお客さんのために素直に活動しよう！」

おわりに

ここまで、文原のエレキギターにまつわる歴史をまとめてみましたが、如何でしたでしょうか？

大切なのは、まずは動いてみることだと思います
そこから失敗でもなんでもいいから、学びを得て、次につなげていく

こういう姿勢はどんなジャンルにおいても共通ですよね^^

文原のこの歴史というのは、
一般的なアマチュアギタリストにとっては
大した価値を持たないことが多いかもしれません

似たような歴史を持った方たちですから

しかし、エレキギター初心者(かもしれない)あなたにとっては、
何かしら発見のようなものをお伝えできる可能性があります

エレキギター初心者脱出プログラムを実践中においても、
この歴史の失敗と成功と教訓を参考にいただければ、

もしどこかにつまずいても、解決の糸口を見つけやすいかもしれません

とにかく、思い立ったことがあれば、遠慮なさらず、
文原までお問い合わせくださいね^^

「そこんどこ、もっと詳しく！」でもOKです
あなたからのメッセージお待ちしております